



▲底は根が荒いのできつめのドラッグでガンガン巻き上げよう

TACKLE GUIDE ●タックルは5.5フィート前後のルアーウエイト200グラムまで対応のジギングロッドに5000番のスピニングリール、ラインはPE 4号400メートル、リーダーはフロロカーボン18号を7メートルほどと強めのセッティングがよい。メタルジグはセミロング、またはロングタイプの150~200グラムの緑金や赤金などゴールドベースのカラーが当地では強い。▶電動ジギングの場合はバッテリーを持参しよう



▲形状やカラーバリエーションはなるべく多めがよい

東京から車で片道約7時間、距離にして約500キロのロングドライブの先に待っているのは、青物の楽園だ。石川県輪島港の漁生丸はブリやヒラマサをメインターゲットとしたジギングで出船しており、取材した10月下旬は輪島沖のセツ島周辺の水深50~70メートル前後を狙い、26キロの巨大ヒラマサを筆頭にブリ、シヨゴ（カンパチの幼魚）などの青物やマハタが姿を現した。冬場は悪天候で出船機会は限られるが、12月一杯は楽しめるので、早めの釣行をおすすめしたい。（詳細は56ページ参照）



●石川県輪島港・漁生丸
山中 修身船長



▲5キロ以上のヒラマサともなるとなかなか上がってこない



▲ジギング経験の浅い同船者にもヒット
▼スロージギングで狙うとマハタなどの根魚やマダイなども釣れる



マハタも！



▲漁生丸ではミヨシの突き出しを利用してキャストで狙うことも可能だ



▲シヨゴ（カンパチの若魚）も姿を見せたが、当地で掛かることは稀



▲26キロのヒラマサは二人がかりで取り込んだ



▲セツ島周辺の50~70メートルダチを狙う

★同行したマシーン山崎さんはヒラマサやガンド（関東のワラササイズ）を含め10本以上釣り上げた



▲26キロのヒラマサは二人がかりで取り込んだ



★大型青物が数釣れる輪島沖だが、20キロオーバーのヒラマサはそうお目にかかれない



▲漁生丸は最大で7名まで乗船可能

石川県輪島港出船 26キロの巨大ヒラマサ出現 石川県輪島沖の青物ジギング

撮影◎本誌編集部

バンもー！

おめじー！

くらげ！

よく引いた！